

吾妻嶺

発行所
福島市方木田字上原37
福島西高校
ホームページアドレス
http://www.fukushimanishi.hk.ed.jp/
発行者
福島西高PTA
印刷
陽光社印刷株式会社

訓性性康
知徳健

校長 瓜生 康弘

ごあいさつ



本校は、進学指導重点校として、生徒が質の高い学びをとおして進路目標を実現できる学力を身につけ、各分野のリーダーとして地域の発展や社会に貢献できる人づくりを進めています。新型コロナウイルスの影響から臨時休業期間もありましたが、今後感染防止対策を講じながら教育活動を進め、伝統である文武両道を目指しながら、高い志を持って自らの目標に挑戦する西高生をサポートしてまいります。

さて、大学入試制度が多面的・総合的な評価に大きく変わりますが、一般選抜だけでなく、総合型選抜や学校推薦型選抜においても大学教育を受けるために必要な学力について、これまで以上に評価されるようになり、また、共通テストでは、日常生活を題材に、多量の資料やデータ等を基に考察し、知識を活用する力が重視され、思考力や表現力を発揮して解くことが求められる問題が出てきます。調査書も記述欄の拡大や表彰等の項目が追加され、高校時代に取組んだ探究活動やボランティア活動等について具体的な記述が求められるとともに、受験生が記載する活動記録書等も積極的に活用され、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送っていくかを意識して高校生活を送ってきたかという主体性が評価されることとなります。保護者の皆様には、お子様が将来どのように社会と関わり生きていくかについて一緒に考えていただくとともに、文武両道の実践に向けて、毎日の健康面でのサポートをよろしくお願ひしたいと思います。今年度も保護者の皆様からご理解ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

PTA会長挨拶

PTA会長 山際 敬司



令和二年度PTA会長を務めさせていただきましたことになりました山際敬司と申します。平素より皆様にはPTA活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。新年度が始まったところですが、新型コロナウイルスの影響で学校も長期休校となりました。現在は平常時の学校再開に向けて、徐々にではありますが日常生活と感染拡大防止対策を両立し、「新しい生活様式」を取り入れながらの生活が始まっております。この感染防止対策の実践につきましては、生徒・教職員の皆様や保護者の皆様のご協力とご苦勞に心より感謝申し上げます。

しかしながら、学校行事、並びにPTA関連の諸行事につきましては活動も、予定されていたものを中止せざるを得ない状況が続いております。PTA総会におきましても書面での開催となりました。結果につきましては、すべての議案につきまして皆様の承認を頂戴いたしました。本当にありがとうございます。今年度は我慢の年として、保護者の代表であるPTA役員一同、保護者の皆様と共に様々な変化に対応しながら「子供たちのために」を目標に取り組みます。引き続き皆様からのお力添えを賜り、保護者の皆さまと教職員の間をしっかりと連携してPTA活動を推進して参りたいと思っております。これまでと変わらぬご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

インタビュー

東日本大震災から十年目を迎えて

当時小学校入学目だった私達が今思うこと

一年一組 若林 彩美

保育所で卒業制作を作っていた時でした。地震の強い揺れとともに「テーブルの下にみんな早く潜って」という先生の大きな声が聞こえてきました。その後保育所は停電。懐中電灯の明かりの中で、母の迎えをひたすら待っていたことは強い記憶として残っています。

翌日給水所に並んでいた時、前に並んでいた人のラジオから、福島第一原子力発電所で事故が起きたという声が聞こえてきました。私は当時六歳、事故の詳細はわかりませんが、大変な事が起きたのだという事は、子どもながらに感じていました。これもまた強い記憶として残っています。

あの時、私は不自由なく生活できることは当たり前前のご生活ではないと知りました。そして命の大切さを実感しました。今、私に命があること、そして不自由ではない生活ができていくことに感謝し、高校生として精一杯生きていきたいです。

一年二組 須永 浩大

二〇一一年三月十一日。小学校入学目前の私には、想像もできない悲劇が起こりました。突然の地震と、それに伴う津波、さらには原発事故と続けた起こった災害により多くの人命が奪われたことは、私にとって衝撃でした。

一方で、この記憶を忘れて過ごすことが多くなってきた。高校生となるまでにたくさんの時間が過ぎていったのだということを実感します。しかし決して忘れてよい記憶ではありません。また地震が起きる可能性があります。その時のために、あの震災を知っている人が知らない人へ「伝える」ことは重要です。

震災の際、私たちがのために他の地域の方が様々な形で支援していただいたことも、また忘れてはならないです。他の地域で災害が起こった時に、「恩返し」ができればと思っています。

震災から十年を迎えての決意

一年六組 齋藤 そら

震災から十年が過ぎようとしている。小学生だった私に強く印象として残っているのは、校庭が一年間使うことができなかったことである。当時は遊べないという悲しい思いが広がったが、今は校庭という、本来は当たり前に使ってきた学校の一部が使えなくなるほどの重大なことが起こったのだという事を理解している。十年を経て、私は同じ境遇を感じている。学校が普通の形を使うことができないという点で、コロナと震災は似ている。しかしどちらの困難にも、それを乗り越える姿を、私は見てきた。

西高の一年生となり、進路を真剣に考えるようになった。困難を乗り越える中で、私は福島という郷土への思いが強くなっている。将来は積極的に福島にかかわるような仕事をしたい。私はデザイン科学科に所属している。ここで学んだことを生かし、復興の福島に貢献していきたい。といったことを通して、福島に貢献していきたい。

コロナ禍の中で

家庭クラブ会長 三年二組 阿部 楓花

家庭科の学習を生かして学校生活や地域生活の充実・向上を目指す活動する組織

家庭クラブとは?

今年度の家庭クラブの活動は、コロナウイルス感染症拡大防止のための休校等により、四月末に予定していた家庭クラブ総会をはじめ、二十年以上前から継続して行ってきた保育園や高齢者施設のボランティア活動が中止となり、現在もできない状況にあります。しかし、校内の美化活動やエコキャンプ・ベルマークの回収作業については、学校生活が落ち着いてからは、活動を再開しました。また、今年度は「防災」についての研究活動を行い、九月に行われる東北地区研究発表会に参加する予定です。

私たち二年生の役員は、七月で引退となり心残りではありますが、後輩の皆さんに次の活動を託します。新役員の皆さん、西高家庭クラブの伝統を継承してください。また、全校生の皆さんは、家庭クラブ員ですので、活動への積極的な参加とご協力をよろしくお願い致します。

特集 家庭クラブ

学校 家庭クラブ 活動の部 14年ぶり 最優秀賞!

令和元年9月3日(火)、橘高等学校において福島県高等学校家庭クラブ東北地区連盟研究発表会が行われ、本校は家庭クラブの部で出場しました。「Let's renew 家庭クラブ活動! ~クラブ員の自覚の芽生えを目指して~」というタイトルのもと、平成28年度から、私たちの学校生活(特に環境美化)をより良くするために工夫して取り組んできたことをまとめ、発表しました。その結果、最優秀賞に選ばれ県大会への出場権を得ました。発表は、1年生の役員が担当しましたが、これまでの先輩方の地道な活動が継続・発展されて今年度発表できる形になったものでした。大変嬉しく、新旧役員皆でこれまでの活動の達成感を得ることができました。県大会は、残念ながら台風19号の後の豪雨と重なり中止、資料審査となっており大変悔しい思いをしました。結果は優秀賞となりました。

ベルマークを回収してユニセフ協会に寄付します。皆さんご協力お願いします。

活動紹介 家庭科クラブ発行 Life Communication No.9より



恵風園訪問

令和元年11月16日(土)、園内の清掃と合唱部によるミニコンサートを行いました。今年もサッカー部の皆さん(1年)が参加してくださり、いつもより大人数(33名)で掃除も隅々まですることができました。合唱部のミニコンサートには、50人以上のお年寄りの方が聴きにきてくださり、手拍子をしたり口ずさんだり、涙を流しながら聴いてくださる方もいらっしゃいました。掃除の爽快感と感動を味わえた有意義な時間となりました。

「冬の風物詩」マドレーヌ作り

令和元年12月6日(金)、家庭クラブ役員と保育園訪問の希望者でマドレーヌを約200個作りました。初めての人が多く、少々ハプニングがありました。が、友達と楽しく作業しながら、美味しく完成させることができました。

作ったマドレーヌは、保育園の園児たちへのクリスマスプレゼントとともに、日頃の感謝を込めて校内の先生方へプレゼントしました。先生方にも喜んで頂けて、とても嬉しかったです。

